展示資料（抜粋）
「神戸村圖 明治維新前實況」「神戸港沿岸利用状況調査図：大正9年」「神戸築港計画図」「六甲山」「摂津名所図会」「兵庫縣案内記」「鐵道旅行案内」「神戸都市計画区域図：大正11年」「神戸首部（二万五千分一地形圖）:1939」「実地踏測神戸市街全図」ほか

令和8年度神戸大学附属図書館資料展

地図が語る近代神戸

令和8年 9.29(火) ▶ 11.30(月)

お問合せ
神戸大学附属図書館
〒657-8501
神戸市灘区六甲台町2-1
https://lib.kobe-u.ac.jp/

入場無料

神戸大学 KOBE UNIVERSITY

展示会場 ▶ 神戸大学社会科学系図書館 ▶ **2階展示ホール**
※学外の方は入口カウンターにお声掛けください

開館時間

平日／8:45～20:00
土日／11:00～17:00
※祝日は休館です

アクセス

阪急「六甲」駅、JR「六甲道」駅、阪神「御影」駅より市バス36系統バス停「神大正門前」下車、キャンパス内を北へ徒歩約5分、またはバス停「六甲台」下車、東へ徒歩約2分
※駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

神戸大学
KOBE UNIVERSITY

神戸大学は、教育・研究とならぶ使命として、地域・社会との連携協力にも力を注いでいます。附属図書館においても、所蔵する貴重な資料を多くの皆様にご覧いただきたいと考え、平成16年度から資料展示活動を実施しています。
本資料展では、近代から昭和にかけて神戸が発展していく様子を、地図資料を中心に紹介いたします。
1868年の開港後、神戸は目覚ましい発展を遂げ、都市へと成長していきました。河川の付け替え、鉄道などの交通網の整備など各年代の地図からも移り変わっていく神戸の様子を見ることができます。
本資料展が、当館所蔵資料をご覧いただける機会となれば幸いです。
ご来場をお待ちしております。

1.

開港と街の誕生

明治初期の神戸を歩く

1868(慶応3)年、神戸港は海外に開かれた国際貿易港として開港しました。開港場には外国人のための居留地が整備され、その周辺には雑居地も広がり、街の姿は急速に変わっていきました。江戸・明治期の絵図や地図など、現在の国際都市・神戸の原点となった神戸港開港と外国人居留地に関連する資料を中心に紹介します。

「神戸村圖　明治維新前實況」

2.

川と港の大工事

生田川、湊川の付け替えと港湾の大工事

開港後の神戸は急激な発展を遂げる一方、六甲山の急流による度重なる洪水と大量の土砂による港湾被害という深刻な課題を抱えていました。生田川と湊川の付替工事は水害を防ぐとともに市街地を拡大させ、築港工事は神戸港を日本有数の港湾へと飛躍させました。これらの治水と開発の変遷を当時の地図から読み解きます。

上：「神戸築港計画図」、下：「神戸港沿岸利用状況調査図：大正9年」

3.

交通網の発展と観光都市への成長

山と海のまち神戸

1874(明治7)年5月、神戸-大阪間の鉄道開通を皮切りに、神戸と周辺の都市や町村を結ぶ鉄道が次々開通しました。神戸市内でも市電やバスなどの交通網が整備されていき、「布引の滝」や「舞子」など旧来の名所へ訪れやすくなるとともに、六甲山の開発により新たな名所も誕生しました。観光都市としての神戸の成長を紹介します。

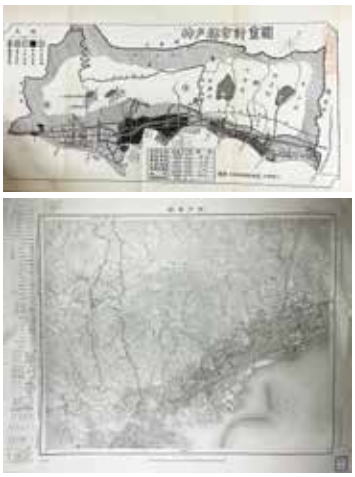
左上：「兵庫縣案内記」、右上：「摂津名所図会」、左中：「六甲山」、右中：「夏の自然美」、下：「鐵道旅行案内」

4.

地図でみる市街地の拡大

神戸はどう広がったのか

神戸市は開港後の発展とともに周辺町村を編入し、市域を広げてきました。また、人口増加に対応するため市街地は六甲山の山麓へと広がり、高度経済成長期には「山、海へ行く」を合言葉に、山を削って海を埋め立てる大規模開発も進められました。神戸が成長を続けながら現在の姿を形づくってきた過程を地図を通してたどります。



上：「神戸都市計画区域図：大正11年」、下：「神戸首部（二万五千分一地形圖）:1939」

令和8年度神戸大学附属図書館資料展

「地図が語る近代神戸」

会期：令和8年9月29日(火)～11月30日(月)
会場：神戸大学社会科学系図書館2階展示ホール
開館時間：平日／8：45～20：00　土日／11：00～17：00 ※祝日は休館
アクセス：阪急「六甲」駅、JR「六甲道」駅、阪神「御影」駅より市バス36系統バス停「神大正門前」下車、キャンパス内を北へ徒歩約5分、またはバス停「六甲台」下車、東へ徒歩約2分 ※駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。
お問合せ：神戸大学附属図書館(〒657-8501 神戸市灘区六甲台町2-1)
URL：https://lib.kobe-u.ac.jp/